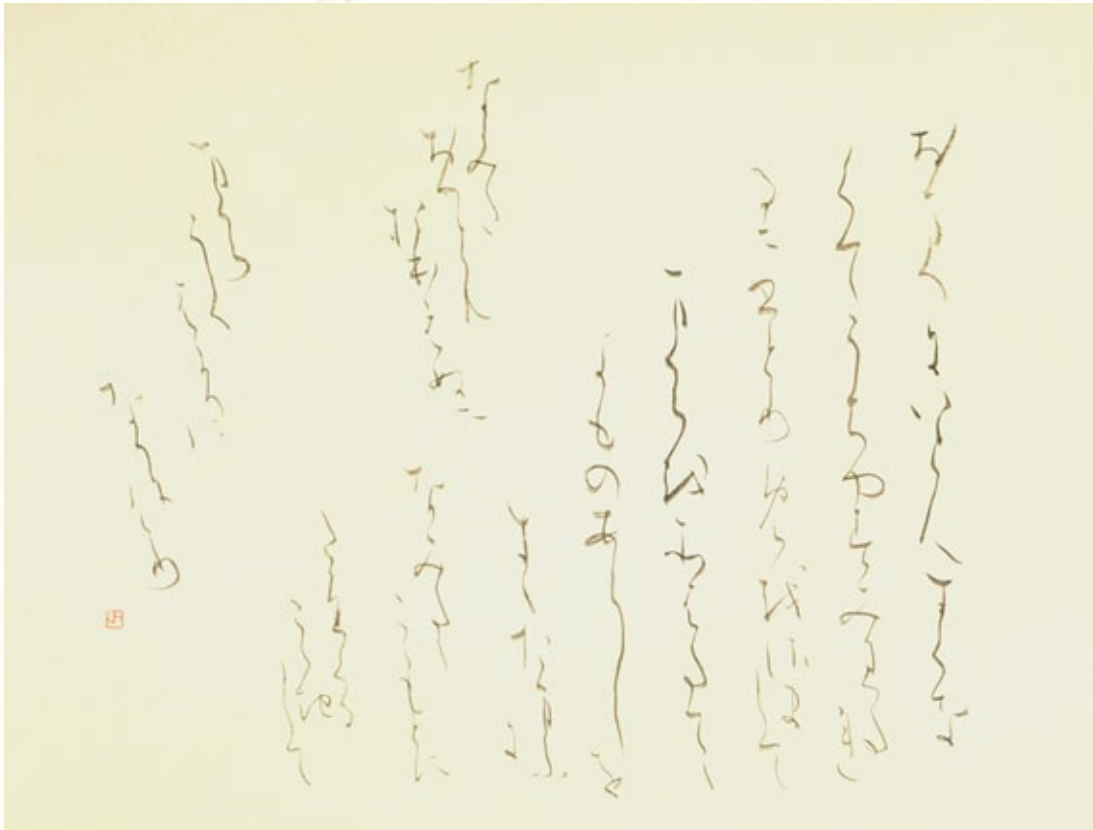


池上会館出張展覧会 熊谷恒子かなの美展

# 熊谷恒子が表現する 華麗なる源氏物語の世界



熊谷恒子《おまへにいと人（源氏物語）》1968年、大田区立熊谷恒子記念館所蔵

2024年5月18日(土) ~ 5月26日(日)

開場時間：9:00 ~ 16:30 (入場は 16:00 まで)

会期中無休

入場料：無料

会場：池上会館 1階 展示ホール

(大田区池上 1-32-8)

アクセス：東急池上線池上駅 下車徒歩 10分

JR線大森駅西口、東急バス池上方面

行乗車、本門寺前 下車徒歩 7分

大田区立熊谷恒子記念館

Kumagai Tsuneko Memorial Museum

TEL・FAX：03-3772-0680 (大田区立熊谷恒子記念館内)

<https://www.ota-bunka.or.jp/kumagai/>



【安全にご見学いただくために、引き続き下記のご協力をお願いいたします。】

※マスクは極力着用いただくようお願いします。

※体調不良の場合は、来館をご遠慮ください。



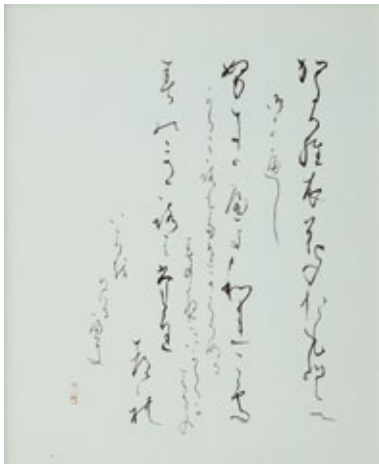
# 池上会館出張展覧会 熊谷恒子かなの美展

## 熊谷恒子が表現する 華麗なる源氏物語の世界

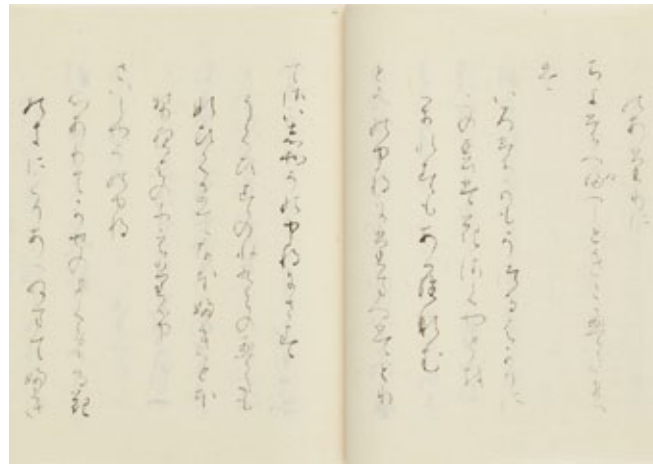
熊谷恒子記念館は、施設の改修工事のための休館に伴い、池上会館で出張展覧会を開催します。

書家・熊谷恒子（一八九三～一九八六）の書業を振り返り、かな書の魅力を紹介します。恒子が「仮名は日本の国字である」と述べるように、かな書は中国から伝来した漢字をくずして、日本において発達した書です。平安時代に成立したかな書が昭和初期に再度注目される中、恒子は「平安朝の仮名を学ばねばならない」と意気込みました。

本展では、平安時代に中宮彰子（一条天皇の皇后）に仕えた紫式部の『源氏物語』をはじめとした王朝文学を題材に、恒子が制作した書を紹介し、折帖に仕上げた『梅ヶ枝（源氏物語）』（一九四一年頃）の他に、主人公・光源氏が退去した兵庫・須磨の浦で心寂しさを詠んだ『おまへにいと人（源氏物語）』（一九六八年）や、出家した藤原道長（中宮彰子の父）と長女・彰子が交わした和歌『から衣（新古今和歌集）』（制作年不詳）など、恒子が表現した華麗な書を展示します。



熊谷恒子《から衣（新古今和歌集）》制作年不詳  
大田区立熊谷恒子記念館所蔵



熊谷恒子《梅ヶ枝（源氏物語）》1941年頃  
大田区立熊谷恒子記念館所蔵

### 【ギャラリートーク】

5月19日（日）、5月25日（土）、5月26日（日）  
各日 11:00 および 13:00、事前申込制です。  
ギャラリートークの詳細及び申込方法については、当館ホームページ、または龍子記念館でご確認ください。

### 【熊谷恒子記念館】（休館中）

熊谷恒子が生前に住んでいた自宅を改装し、1990年に開館した記念館です。

### 【今後の予定】

- ◆熊谷恒子記念館における展覧会  
（長期休館より開館後）  
かなの美展Ⅰ  
会期：10月12日（土）～12月8日（日）予定

※詳細は、大田区報、情報誌「ART MENU」、  
当館ホームページ等に掲載します。  
※日程・内容は変更される場合があります。

大田区立熊谷恒子記念館  
Kumagai Tsuneko Memorial Museum

TEL・FAX：03-3772-0680

（大田区立龍子記念館内）

<https://www.ota-bunka.or.jp/kumagai/>



### ◆『源氏物語』とかな書

「仮名のみなむ、今の世はいと隆なくなりたる」と光源氏が述べた『源氏物語』の「梅枝」において、恒子は「源氏の君の言葉をかりて紫式部も其隆盛をのべてゐる」と当時かな書が隆盛していたことに言及しています。『源氏物語絵巻』や『紫式部日記絵巻』の書を尊重した恒子は、かな書の向上に邁進しました。



熊谷恒子（79歳）1972年

※『源氏物語絵巻』とは、『源氏物語』を題材とした現存最古の絵巻物です。藤原隆能（近衛天皇の絵所預）がその絵師と伝えられ、「隆能源氏」と呼ばれています。

### ◆熊谷恒子の印影

記念館には、恒子愛用の自用印を収蔵しています。恒子と交流のあった篆刻家の高畑翠石（1879～1957）や保多孝三（1908～1985）が彫った印章があります。恒子は、「紙の大きさ、字の大きさにより、場合に応じて使用する印」として、印の書体や配置に執心していました。恒子の書と印の関係を紹介します。



恒子の印影（保多孝三刻）